



# 医療と介護・福祉の切れ目のない密接な連携が当法人の最大の強みです。

医療法人・社会福祉法人松涛会は、山口県下関市の旧市内・山陰地域において医療および福祉事業を展開している。今回は社会福祉法人の本部を併設する「特別養護老人ホームはまゆう苑」にて、理事長の齋藤正樹氏および奥様で副理事長である妙子氏、そして事務長の川瀬英盛氏にお話をうかがった。松涛会は本年12月に「フロイデ金比羅」のオープンを予定しており、「川上から川下までの多機能複合施設」をテーマに掲げた、同一建物内での住み替えに沿った住居といえる施設である。

社会福祉法人 松涛会

第9回

齋藤 正樹 氏  
齋藤 妙子 氏

さいとう・まさき ●山口県下関市の社会福祉法人松涛会理事長。医療法人社団松涛会理事長も兼ねる。下関市の安岡地区、山の田地区、綾羅木地区、彦島地区に病院やクリニックをコアとした医療・福祉サービスを多岐にわたって展開。

さいとう・たえこ ●社会福祉法人松涛会副理事長。特別養護老人ホーム「はまゆう苑」苑長も兼ねる。現在、2014年12月開設の高齢者多機能複合介護施設「フロイデ金比羅」の運営に力を注いでいる。

## クリニック開業からスタート

松涛会グループの歴史は1960年に、下関市彦島地区江の浦町で「齋藤医院」を開業した時から始まります。1981年に52床の入院設備を整えクリニックから病院へ移行、さらに1983年に医療法人を設立し、その後148床に増床しました。3年後の1986年2月には社会福祉法人松涛会を設立。同年12月に最初の福祉施設「特別養護老人ホームはまゆう苑」を開設しました。その後、90年代に入ると、「老人保健施設コスモス」「ケアハウスオリーブ」「グループホームわたぼうし」など多量の介護老人福祉施設を立ち上げ、さらに2005年には彦島地区



特別養護老人ホーム はまゆう苑

西山の高台、関門海峡を見渡せる高台に複合介護福祉施設「フロイデ彦島」を開設することができました。当施設は私たちの念願だった「自分たちが入ってみたい施設」を具現化したものです。自然光が豊富に入るデザインや、いたるところで海が視界を占める間取り、解放感溢れる内装などのハード面に気を使っただけでなく、職員と入居者の交流やおい

しい食事の提供など、ソフト面にも力を注いでいます。

## 医療と福祉の密な関係

松涛会の最大の特徴は、密接な医療と介護、福祉の連携です。地域に住む人々に対し生涯にわたって健康の面、介護の面でお世話をすることが出来ます。とりわけ高齢者への医療・介護の切れ目ない継続的なケアは、地域の皆さまに安心して老後を迎えられる拠りどころだと受け止めていただいていると思います。

急性期の病院を退院し家に帰られた患者さんへ訪問看護や訪問介護を実施し、家族の負担が大きくなったら特養に入っていたといたったスムーズな移行が可能です。元気な方へのサービス付き高齢者住宅の供給もあります。まさに、あらゆるステージでのサービスを提供できる体制を整えています。

医療の拠点となる安岡病院と介護の拠点である特別養護老人ホーム「はまゆう苑」は同敷地内にあり、医療と介護の距離的なストレスは

まったくありませんし、同じグループ内の職員同士が連携しますので、患者さんの状態の把握や情報のやり取りもスムーズに行うことが出来ます。安岡病院は緩和ケア・回復期リハビリ・難病・医療介護病床と多様な病床をもつ病院ですから、医療と介護の密接度が非常に高いのです。

## 最大の課題は職員の確保

多くの社会福祉法人と同様に、当法人も職員の確保には苦慮しています。少子化に加え介護職の処遇の問題もあり、これが最大の課題となっています。しかし、私どもは医療がバックボーンとしてありますから、就職をされる方のご家族からの信用も高く、医療と介護と福祉の受け皿がありますので、医療の方で定年を迎えた職員の希望で介護職員として再採用することなどもできます。現に定年になった方に一年間介護の勉強をしてもらい、今度は介護の分野で活躍してもらっています。医療と介護の両方のスキルを覚え、経験を積むことはその人にとっては大変な

財産になると思います。もちろん、医療から介護へと移る際には相当の頭の切り替えが必要であることは言うまでもありません。

ここ最近、地域の雇用状況により男性の介護職員の応募が多くなってきました。以前は8対2(男性2)ぐらいでした。将来のある介護分野をめざし、介護職に挑戦したいの志を持つ男性ですので、この方に対する心配りのある受け入れにより介護福祉の仕事に取り組んで頂くこともまた課題となっています。現在、両法人の職員数は、医療が718人、介護が265人です。新施設がまもなくオープンしますので、その際には1000人を超す人員になります。

私どもの職員教育、勉強会は技術習得などに力を入れておりますので、相応に厳しいよう、それが嫌で辞めていく職員もいます。もっと楽な職場に勤めたいと思って辞めていくのですが、結局そのような施設では勉強ができない、これ以上成長できないと気づいてまた戻ってきた



医療法人 松涛会の母体 安岡病院



新規オープン 高齢者多機能複合介護施設 フロイデ金比羅





川瀬英盛事務長

いと訪ねてくる人もおります。その場合はまた一緒に働こうと歓迎します。他の法人に行つて初めて当法人の良さ、厳しいながらも自分の成長の糧になることが実感されるのですね。それに気づいた人はとても頑張ってくれますし、非常に優秀な職員になります。

## 社会福祉法人のあり方とは

社会福祉法人としては、特養、デイサービスなどを核とした手堅い事業の運営で、社会福祉法人としての存在価値があるでしょうか。例として、小規模多機能型の運営は、在宅の利用者の方の送迎、ヘルパーとしての訪問など人手のかかる内容で、また介護事業は民間でも始めること

ができ、現にいろいろな企業、医療、法人などが進出し、経営は厳しい状況にあります。だからこそ、私達は、それら他分野の参入を他人事のように眺めているのではなく、採算の厳しい事業こそ社会福祉法人がやるべき事業と思うと共に積極的に取り組まなければいけないのではないかと感じています。社会福祉法人も攻めに回らなければ存在自体が危ぶまれます。そんな時期に来ていると考えています。また、社会福祉法人は税金の面で優遇されているのですから、医療法人や民間ができないこと、手を出したくないことを率先して行わなくてはいけないと思っています。誰でも歳を取ったら訪問看護や訪問介護のようなサービスを受けたい、在宅での活しが無理になれば施設に入りたくないと願うのですから、そのようなニーズに極力応え、地域の介護と福祉を充実させていくことが私たちの使命だという信念を持っています。そのような観点から地域における医療と介護と福祉の一体型のサービス拠点を目指したのです。

私どもの小規模多機能施設には民間の住宅を買い上げ、そこに介護の機能を付加させている施設もあります。家庭的な雰囲気を感じられて利用者や家族にはとても評判がよいようです。

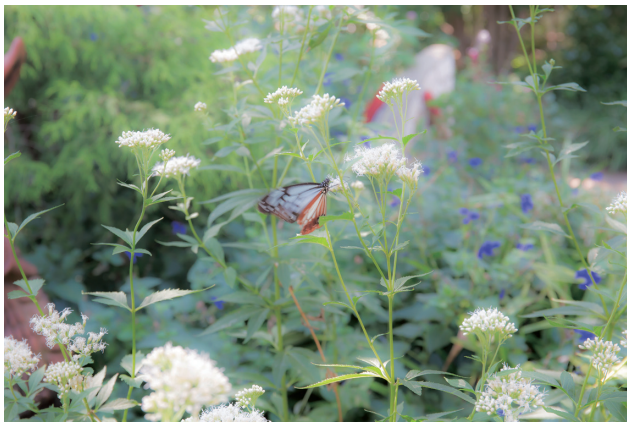
## 「癒し」と「安らぎ」を重視する

市内のデパートの外商の人が、市民の3人に1人は松涛会のサービスを利用していきますと言っていました。自分かあるいは家族の誰かが、医療もしくは福祉で松涛会の施設を利用しているというのです。ありがたいと思うと同時に責任の重大さを改めて認識しました。あそこの病院にかかってよかった、あそこにヘルパーをお願いしてよかった、あそこのホスピスで幸せな最期を迎えることができた、このように感じてもらえれば、これに勝る喜びはありません。

入居者に本当に満足していただくためには、その施設が備えているハード機能の充実だけでなく、ソフ



ケアハウスフロイデ彦島 外観と内装



はまゆう苑 イングリッシュ  
ガーデンに集まるアサギマダラ

## 社会福祉法人 松涛会

### ●事業内容

#### ■はまゆう苑本部

- 特別養護老人ホーム
- ケアハウスオリーブ
- はまゆう苑 地域交流ホーム
- デイサービスセンター
- 居宅介護支援事業所
- 脳いきいきデイサービスねぎ
- 生活支援ハウス ねぎぼうず
- コスモス在宅介護支援センター

#### ■小規模多機能型居宅介護 杜の宮

- 住宅型有料老人ホーム 杜の宮

#### ■あやらぎ拠点

- デイサービスセンター
- 居宅介護支援事業所
- ホームヘルプステーション
- 在宅介護支援センター

#### ■フロイデ彦島拠点

- ケアハウス
- グループホーム
- デイサービスセンター
- ホームヘルプステーション
- 居宅介護支援事業所
- 防災拠点地域交流ホーム

#### ■サテライト型新型特養 フロイデハイム

#### ■フロイデ金毘羅拠点

- 特別養護老人ホーム
- ショートステイ
- グループホーム
- 小規模多機能型居宅介護
- サービス付き高齢者向け住宅

●法人認可 昭和61年12月

●所在地 〒759-6604 山口県下関市横野町3-15-10

●URL <http://www.syoutoukai.or.jp/>

ト、つまり癒しや安らぎを感じてくれる雰囲気づくりがとても重要だと考えています。「フロイデ彦島」は、これまでの固定観念にとらわれない発想で作られた複合型施設で、「癒し、安らぎ」を最大限に入居者に感じていただけるよう、さまざまな工夫を凝らした造りになっています。おかげさまで年平均1000人ぐらいの見学者が訪れてくれます。「空と海」が思う存分に見わたせる自然環境。だれでもが癒され心が平穩に

なれる外装やインテリア。当施設は、介護福祉施設としては異例の「建築業協会賞」と「医療・介護の建築賞」を受賞しました。

「癒しと、安らぎ」の視点は食事にも向けられます。入居者の大きな楽しみである食事を充実させたいとの思いから、病院介護福祉分野ではまだ実施している施設が少ない「真空低温調理」システムを立ち上げ、メインの料理をセントラルキッチンで作り、各施設のサテライトキッチン

ンでは、汁物、揚げ物などを作ります。直営ですから、地元食材を使つた水準の高いおいしい食事の提供ができております。

「はまゆう苑」のイングリッシュガーデンには、毎年10月になると、南西諸島・台湾へ渡るアサギマダラという蝶がやっけます。花の間をひらひらと飛ぶさまは可憐で美しく、入居者だけでなくスタッフ達の心もやさしく癒してくれます。



「真空低温調理」を準備する本部厨房室